



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年12月19日 第1098号「週刊五十嵐レポート」

## 基本を極めるとは

漫画「はじめの一步」に登場するWBA世界フェザー級チャンピオン、リカルド・マルチネス選手は68戦68勝64KOの最強チャンピオン。彼は基本に忠実で教科書通りの選手。誰もが真似できるようだが、実際なかなかできない。「圧倒的強さ」が強調されるが、実は基本を極め、たゆまに反復練習を積み重ね才能を開花させた努力型として描かれている。しかし世間はそこを見てくれず、「天才型」と評価する。

井上尚弥選手は12月13日、世界バンタム級4団体のチャンピオンになった。4団体ともKO勝ちという圧倒的強さを誇る。トレーナーの父曰く、「もともとセンスがあったわけではない。基本を人並み以上に練習した」。練習の映像を見ているとプロボクサーが行う基本的な練習と変わらないように見える。特別な事はしていない、正にボクシングの教科書通り。真似しようと思っても誰も真似できないのでは。

基本とは、物事がそれに基づいて成り立つような根本。(広辞苑より)あらゆるものに基本はある。例文として、「仕事の基本を身につける」「基本に忠実な演技」「経営の基本を学ぶ」など。

世界最強の選手以外の達人・名人の人たちも基本を大事にし、日々基本を繰り返し練習に励んでいる。一方我々凡人は基本を疎かにし、目先の成果を追い求めてしまう。

経営の基本を考えてみる。経営は顧客がいなければ、存在できないので、お客を作ることが第一歩になる。お客作りを考える上で、商品・サービスを何にするか決める。どこでやるか(営業地域)、誰に(客層)販売するか、どうやって行うか(営業方法)決めるなど、実行の手順がある。これらが経営の基本になっていく。実際に経営を行っていくと、徐々に知らず知らずのうちに基本から逸脱してしまう。「ブレてしまう」という言葉。気がつかないうちに商品の幅が広がったり、営業地域が会社の規模以上に膨らんだり、重点の客層がぼやけていったりする。基本に忠実とは、「しないこと」と「すべきこと」をきっちり分けているということでもある。

ちょっと  
気になる出来事

日経ビジネス12月19日号のコラム「賢人の警鐘」はミスミグループ名誉会長の三枝匡氏。

日本人が世界のスポーツ界のトップレベルまで勝ち上がり奮闘している姿を見ることが多くなった。半世紀前にスポーツで勝てなかった日本人がこれほど強くなったのに対し、半世紀前に世界であれほど強さを称賛された日本企業の経営がこれほど衰退し、「失われた40年」に突入しているのはなぜか。

アスリートは、個人としてすさまじい熱意、努力、知恵、野心を抱き、海外に出て世界トップへの距離を肌感覚で知り、さらなる努力を重ねる。

一方、企業は、個人の「突出」より「うまく収める」ことが重視された。今後は、「個人の突出」がカギになると言っている。

キーワードは「戦略志向」「リスク志向」「プロ志向」。

小さな会社の場合、日本の一地域で活動していても、世界からの視点は大事。



一口メモ  
知識

## 苦節(くせつ)十年

節(せつ)は亨(とお)る。苦節は貞(てい)にすべからず。

「苦節十年」とは苦しみに耐え忍び、志を遂げることを意味する言葉。

美德とされるが、この「苦節」の出典が「苦節は貞にしべからず」。

「貞」とは、正しい、固い。

「節」は竹の節で、次に伸びていくために程よい節目を設けること。

節度とは適度な度合いをいい、節約は費用の無駄を省くこと、

節食は過度な食事に減らすこと。

だが、節しすぎると体を壊すこともある。

あまり堅く厳しく節制すると道が窮まってしまうという教えである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

